

序

〔知働化研究会誌第2号〕

知働化研究会
Executable Knowledge and Texture Laboratory

知働化研究会のあゆみ

知働化研究会誌 Volume 2 の概要

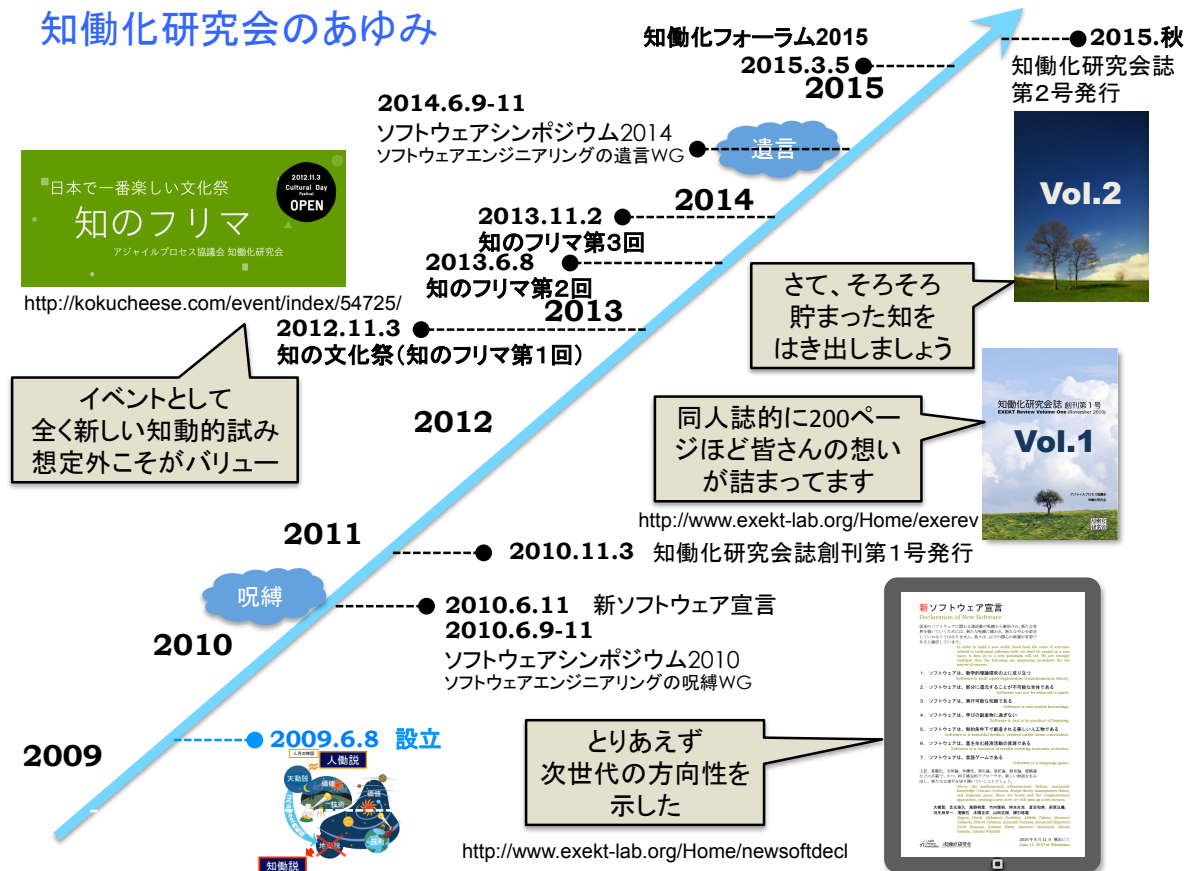
知働化研究会は、アジャイルプロセス協議会の WG として、2009 年 6 月に設立された研究会で、コンセプトリーダーとして山田正樹氏（メタボリクス社）、運営リーダーとして筆者（大槻）、2015 年 10 月時点で、メンバ数 25 名の方々が参加しています。

2 ヶ月に 1 回程度の会合を開催し、現在までに 40 回の会合を重ねてきています。研究会のあゆみを振り返ってみると、いくつか節目となるイベント、成果などは図に示すようにまとめることができます。

最初の大きな成果は、2010 年 6 月の『新ソフトウェア宣言』に集約されています。SEA（ソフトウェア技術者協会）主催のソフトウェアシンポジウム SS2010 アジャイルプロセス協議会（知働化研究会）協賛の「ソフトウェアエンジニアリングの呪縛 WG」の中で、ソフトウェアに関わる技術者、研究者、経営者、コンサルタントなどの多方面の方々に参加いただき、クールにソフトウェアエンジニアリングの現況を把握し、限界を見極め、課題を整理し、次のステップに進むための準備をしました。その成果として『新ソフトウェア宣言』という形でメッセージをまとめました。

2010 年 11 月には、知働化研究会誌創刊第 1 号を上梓・公開しました。設立当初は、毎年発行することにしていましたが、扱うテーマがそれなりに深いこともあり、結局第 2 号（Volume 2）の発行まで 5 年を要することとなりました。

知働化研究会のあゆみ



日頃の会合での議論や、各自の探求や議論の中から、新たな知の交流の方式が自然に生まれてきました。これを交流の手法としてまとめたものが「知のフリマ」です。人々が日頃から取り組んでいることを持ち寄って知を自由（Free）に交換する場（フリーマーケット）です。第1回を2012年の11月に開催し、以降、何回かこの方式でイベントを開催しました。

2014年には、SS2014にて「ソフトウェアエンジニアリングの遺言」と称するテーマで、いわゆる大御所の先生方や研究者・実務家にインタビューを実施し、ソフトウェアエンジニアリングの温故知新的な知見や、今後の布石となる考え方について整理を行いました。

2015年の3月に「知働化フォーラム2015」というイベントを企画し、テーマとして「ソフトウェアの未来をつくる」をとりあげ、今後の方向性を見極める企画をたてました。本研究会誌の中で、この時に講演や成果がまとめられている部分も大きいと考えられます。

知働化研究会誌創刊第1号の構成

 知働化研究会誌 創刊第1号 EXEKT Review Volume One (November 2010) アジャイルプロセス協議会 知働化研究会 知働化研究会	EXEKT Review Vol.1 序 6 知働化前史 山田正樹 7 巻頭言：知働化研究会誌発行に寄せて 知働化研究会活動経緯 ポスト・アジャイルプロセス起動 大槻繁 15 論説 23 知働化プロセス 山田正樹 25 知働化プロセスの一つのあり方についての試論 リアルウェア 濱勝巳 36 ソフトウェアは空 対話『リアルウェア』 大槻繁 50 H氏とO氏との対話 システム・エンターティナー 時本永吉 57 システム開発を楽しむ ゆるっと行こう 本橋正成 87 ゆる思考のすすめ ΛVモデル 大槻繁 105 V字モデルからの意味論的転回 クラウドコンピューティングにおける アーキテクチャの進化の方向性 萩原正義 132 頭脳のアーキテクチャからのアプローチ	EXEKT Review Vol.1 寄稿 149 アジャイル開発プロセスと契約 高橋雅宏 151 契約はアジャイル開発プロセスに追いついたか 小論 165 知働化が切り開くソフトウェア工学の価値創造 竹内雅則 167 ソフトウェアと価値 なぜ、あなたはモデルが 睡けないか 天野勝 171 概念モデルと実装モデルの対決 ソースコードを書くことに 似ていること 中村和彦 176 ソースコードという文 新しい知識のカタチ 羽生田英一 182 知識に対する新しい取り組み 編集と知働化 野口隆史 188 新時代の知識編集 結 195 編集後記 197 入会のご案内 202
---	--	---

知働化研究会誌創刊第1号は、以下のような作品構成です。

序

- 知働化前史（巻頭言：知働化研究会誌発行に寄せて） 山田正樹
- 知働化研究会活動経緯（ポスト・アジャイルプロセス起動） 大槻繁

論説

- 知働化プロセス（知働化プロセスの一つのあり方についての試論） 山田正樹
- リアルウェア（ソフトウェアは空） 濱勝巳
- 対話『リアルウェア』（H氏とO氏との対話） 大槻繁
- システム・エンターティナー（システム開発を楽しむ） 時本永吉
- ゆるっと行こう（ゆる思考のすすめ） 本橋正成
- ΛVモデル（V字モデルからの意味論的転回） 大槻繁
- クラウドコンピューティングにおけるアーキテクチャの進化の方向性
（頭脳のアーキテクチャからのアプローチ） 萩原正義

寄稿 153

- アジャイル開発プロセスと契約
（契約はアジャイル開発プロセスに追いついたか） 高橋雅宏

小論 169

- 知働化が切り開くソフトウェア工学の価値創造

(ソフトウェアと価値) 竹内雅則

なぜ、あなたはモデルが描けないか

(概念モデルと業務分析モデルの関係) 天野勝

ソースコードを書くことに似ていること

(ソースコードという文) 中村裕樹

新しい知識のカタチ (知識に対する新しい取り組み) 羽生田栄一

編集と知働化 (新時代の知識編集) 野口隆史

結

編集後記

入会のご案内

知働化研究会誌第2号の構成



序 5	巻頭言 山田正樹 5
	知働化研究会のあゆみ 7
	知働化研究会誌 Volume 2 の概要
論文 7	
知平：知働化のゆくえ 大槻策 7	
知平：知働化のゆくえ 大槻策 7	
良い道具と良い職人 高橋雅彦 35	
良い道具と良い職人 高橋雅彦 35	
分散システムが決める進化の方向性 萩原正義 49	
分散システムが決める進化の方向性 萩原正義 49	
第2技術としてのアジャイル 羽生田栄一 57	
第2技術としてのアジャイル 羽生田栄一 57	
バーンダウンチャートとプレッシャー 水越明雄 67	
バーンダウンチャートとプレッシャー 水越明雄 67	
アーキテクトとは 濱田正成 105	
アーキテクトとは 濱田正成 105	
ゆる思考 本橋正成 135	
ゆる思考 本橋正成 135	
おもてなし 塩田英二 135	
おもてなし 塩田英二 135	

随想 153	
知働化フォーラム 2015 を終えて 155	
知働化フォーラム 2015 を終えて 155	
山田正樹氏『知働化の最前線』解説 155	
山田正樹氏『知働化の最前線』解説 155	
スライド集 169	
ソフトウェアの未来をつくる 大槻策 171	
ソフトウェアの未来をつくる 大槻策 171	
知働化の最前線 山田正樹 175	
知働化の最前線 山田正樹 175	
アーキテクチャ主導の企業システム 中山真之 181	
アーキテクチャ主導の企業システム 中山真之 181	
地球規模のクラウド競争の勝者を決める技術とは何か 萩原正義 187	
地球規模のクラウド競争の勝者を決める技術とは何か 萩原正義 187	
工業化の負債からの脱却 濱田正成 193	
工業化の負債からの脱却 濱田正成 193	
結 199	
編集後記 201	
編集後記 201	
今後の活動 205	
今後の活動 205	

第2号の作品構成は、ほぼ創刊第1号のものに準拠しています。第1号では「論説」と「小論」という形で、本格的な論文の体裁が整っているものと、軽快な自由な文体からなる随想的なものに分類していましたが、第2号では、「論文」として作品をひとまとめにし、後半の「随想」と「スライド集」という形で、2015年3月に開催した知働化フォーラム2015の講演の解説やスライド集を中心としたものになっています。

第1号と第2号との両者に寄稿されている著者の作品は、同一のテーマ設定の中で5年の歳月を経ての進化を読み取ることができると思います。以下、簡単に主要な論文の概要を紹介しておきます。知働化フォーラム2015の関連する記事については、「随想」以降の章を参照してください。

知平：知働化のゆくえ 大槻繁

2014 年の元旦に書き下ろした随想集を再編集したもの。哲学のすすめ、仏教からのヒント、知の基盤としての数学、新ソフトウェア宣言その後、これからの予測技術、ソフトウェア参謀という一連の知働化に関連したテーマについて語っています。

良い道具と良い職人 高橋雅宏

第 1 号での「アジャイル開発プロセスと契約」の発展、その後の考察です。優れたソフトウェア開発者についての思い、考え続けてきた「契約の締結」という行為の当事者についての無意識下の事項などについて、閑話休題的なコラムともに提示されている実務家の書き下ろし論説です。

分散システムが決める進化の方向性 萩原正義

クラウドコンピューティングのアーキテクチャについて考え続けている事項から、その本質的な競争力の源泉になっている事項は何かを明らかにし、方向性を示しています。

第 2 技術としてのアジャイル 羽生田栄一

第 1 号での「新しい知識のカタチ」の小論において、最後に「続く」と記載されていたものに相当しています。文化的・社会的な観点からの考察と、エンゲストロームの活動理論の中にアジャイルプロセスを位置づけ、アジャイルの収まっていくみちすじを示しています。

バーンダウンチャートとプレッシャー 水越明哉

アジャイルプロセスの現場でよく使われるバーンダウンチャートとその心理的なプレッシャーについて考察し、その運用の仕方を定式化しています。

アーキテクトとは 濱勝巳

創造的なシステムをつくる新たなアーキテクト像を提示しています。「アーキテクトの仕事とは法（ほう）をつくることである」という書き出しで、濱氏が日頃意識

しているシステム構築や実装のポイントを掲げています。仏教的なものの見方が背景にあり、第1号での「リアルウェア」に続く、インパクトのある作品に仕上がっています。

ゆる思考 本橋正成

第1号での「ゆるっと行こう」に続く、「ゆる」研究の一環としての作品です。ベイトソンの学習モデルを参照し、我々の社会が規範化が進んでいく過程と、境界(きわ)を変える過程とがあることを提唱しています。組織の官僚化、標準化による硬直化などを説明するモデルになっていると同時に、そこから脱却するヒントを与えていると言えます。

おもてなし 塩田英二

「おもてなし」、「おまかせ」といった日本人の心に宿る作法や所作の世界をソフトウェアに援用する試みです。かねてから、講演等では話がでていましたが、書き物としてまとめられるのは、今回が初めてではないでしょうか。希少性の高い作品と言えます。(未掲載)

山田正樹氏『知働化の最前線』解説

これは作品というよりは、講演録であり解説です。山田正樹氏の知働化フォーラム2015での講演を書き留め、編集者(大槻)が若干の解説を試みたものです。今後10年、20年のみちすじを示す、とても重要な資料です。

